

鶴見川通信 第1号

豪雨・相次ぐ記録更新

首都圏を直撃するかに見えた台風12号は、進路を西に変え近畿地方に甚大な被害を及ぼしました。気象庁の発表では、奈良県上北山で72時間雨量が1652.5mmと、昭和51年の統計開始以来、国内最大を記録しました。これまでにない破壊的な雨量による被害が全国各地に出現しています。

鶴見川上流もこの夏の8月26日、時間雨量77mmの観測史上最大の集中豪雨に襲われました。河川の急激な増水、氾濫による洪水が日々の生活に襲いかかる可能性が高まっております。災害対策をより充実させていく必要があります。



集中豪雨で冠水する道路

大型台風と「暴れ川」

鶴見川は元来、川幅がそれほど広くない割にくねくねと蛇行しており、かつては「暴れ川」と称されるほど洪水氾濫を繰り返していました。とりわけ昭和33年

9月の狩野川台風では、2日間に流域平均で343mmもの大雨となりました。その被害は甚大で鶴見川の各所で洪水が堤防を越え、家屋の全半壊、床上・床下浸水が2万戸以上にのぼりました。

都市型の水害に備える 総合治水対策

鶴見川流域は、昭和40年代から急激に都市化が進み、地面の多くが舗装されたために、雨水が一気に川に流れ込み、簡単に洪水が起るようになってしまいました。洪水被害を防ぐため、鶴見川の河道を拡げ、遊水地、雨水貯留施設を整備し、最上流の町田市「源流保水の森」に代表される緑の保全など、流域全体で助け合う総合治水対策に取り組みて来ましたが、現在鶴見川は、狩野川台風の再来を想定し整備を行っているところです。



鶴見川プロフィール
東京都町田市の奥を源流とし、神奈川県川崎市、同横浜市を経由して横浜市鶴見区の河口から東京湾に注ぐ。全長42.5km。特定都市河川に指定。

狩野川台風による洪水で屋根伝いに避難する人々(横浜市鶴見区)

最大被害を想定して、自分でも取り組む防災対策

リアルタイムでキャッチ、川の現在を知る 情報のチカラ

流域住民と鶴見川をつなぐもうひとつの力も生まれています。それは、インターネットが普及したことで実現したリアルタイムな「情報」です。情報の即時性は特に災害時に効果を発揮します。国土交通省のWebサイト「川の防災情報」では、鶴見川流域だけでなく全国の雨量や洪水の状況などを常時更新してお伝えしています。台風等による大雨の際には、ぜひチェックしてみてください。

台風シーズンには 万全の備えを

自然災害に対して「知っておくこと」「備えておくこと」が大きな効果を発揮します。市区役所窓口での配布やそのホームページで公開している「ハザードマップ」で避難場所を確認する、避難ルートを実際に通ってみる、といった準備



250m格子で雨量を伝える、川の防災情報「X/バンドMPレーダー」

が、いざという時に慌てず落ち着いて行動につながることにあります。鶴見川をよく知ることで、市民の皆様は川をもっと身近に感じたいだけのものでしょうか。



鶴見川流域は熊の形です

川本来の豊かさを取り戻す、水マスタープランへ

治水対策に一定の効果を得た鶴見川の現在は、安らぎと潤い、そしてふれあいを求める、市民の心のよりどころへと変化しつつあります。平成16年、総合治水対策をさらに進め、鶴見川が自然の川として本来持つ機能を強化し、より多く



平成15年完成、鶴見川多目的遊水地

の自然を湛える水辺として再生する事業「鶴見川流域水マスタープラン」(以下「水マス」)が多くの市民参加のもとに発足しました。水マスは行政、企業、市民、市民団体が一体となり、鶴見川流域をより魅力ある環境に整えていく、世界でも先進的な取組です。特に市民の皆様が鶴見川を、暮らしを彩る重要な要素としてとらえ、クリーンアップなどの流域貢献活動を行っていただいていることが土台となっています。皆様も水マスにぜひご参加ください。

防災情報満載の鶴見川流域センターをご利用ください

鶴見川の防災に関する情報がたくさん手に入り、更に自然や環境、生き物についても詳しく知ることが出来る鶴見川流域センター。水族館も併設され、家族で楽しめるスポットです。ぜひ一度、来館ください。

この広告および鶴見川に関するお問い合わせ
 国土交通省 京浜河川事務所
 TEL 045-503-4009
 地域防災施設 鶴見川流域センター
 (JR小机駅から徒歩5分、徒歩6分)
 TEL 045-475-1998
 川の防災情報
 PCサイト <http://www.river.go.jp/>
 携帯サイト <http://i.river.go.jp/>

広告

川があり人が育ち、人がいて川が活きる